

# 令和6年度椎葉小学校 第1回学校運営協議会(7/9)

新規委員2名への委嘱状交付後に、授業参観、学校経営説明、これまでのふりかえりをした後、熟議を行いました。

(委嘱状交付の様子)



(教室参観の様子)



今年度の学校経営方針について、校長が説明し、委員のみなさんから改めて承認を得ました。

□ 学校教育目標「ふるさとに学び、心豊かで、たくましく生きる椎葉小の子ども育成」の具現化に向けた学校経営ビジョンの説明

○ 『地域とともにある学校づくり』

○ 児童が『通いたくなる学校』、保護者・地域が『通わせたい学校』、教職員が『働きがいのある学校』

□ 目指したいのは、「みんなが幸せ」・・・

ウェルビーイング  
かてーり

今年度の学校運営において、椎葉村や各地区公民館の未来像から、「ウェルビーイング」を軸に協議がはじまりました。

① 椎葉村・各地区公民館が掲げる未来像も考えながら、あなたが考える「ウェルビーイング」とは何か？

自分の子どもの成長はうれしい・・・椎葉小の子どもとは、今年度、朝玄関で出迎え、じゃんけんをしながら、変化に気付いたり成長を見つけたりすると幸せを感じます。

子どもの笑顔が見られるとウェルビーイングを感じます。今日集まった皆さんの表情を見ている、そう感じた。家庭や地域も役割を担うことで、同一員と感じられるのではないかと思います。

本日の授業を参観し、子どもたちと先生方の表情から晴れ晴れとした気持ちになった。子どもたちは家庭や先生方の温もり・やさしさを感じている。一方で、やさしさとともに厳しさもいる。

子どもたちにとって分かりやすい「チャレンジ・スマイル・ガッツ」が受け入れられている。今後は、「免疫をつけたガッツ」になっていくとよい。

学校や教育は、公平・公正でなければならないし、同時に安心・安全の視点も欠かせません。例えば、知らない人に対する関わりをどう認識させればよいか。物怖じしない子どもを育てることも大切だが、善し悪しもある。そういうことを考えていくことがウェルビーイングにつながるのではないか。

梅尾地区に4月から通学する児童が2名に増えた。夏、旧梅尾小のプールを使いたい意見があがり、「清掃をしたい」「ホースを修理したい」と自主的に住民が集まり、整備が進んでいます。子どもの声で人が集まってくることに幸せを感じます。

従業員に笑顔で現場に行かせる、笑顔で戻ってきてくれることに幸せを感じます。同じように、地区の子どもたちが学校からバスで戻って来た時、笑顔や元気な姿を見守っていると、幸せだと感じます。

夕方、学校近くを散歩していると子どもたちの声、特にスポーツ少年団が練習する声を耳にします。ついつい顔を見たくなるんです。最近の様子から「やらされた感」がない姿に見え、元気をもらえて幸せを感じます。

自分の子どものバス通学に心配や不安がありました。人数が多い環境に入り、子どもも親も友だち・保護者・先生を知ることができたのは幸せを感じます。久しぶりに学校を訪れて懐かしさと親近感を感じました。

# 令和6年度椎葉小学校 第1回学校運営協議会(7/9)

## ① 椎葉村・各地区公民館が掲げる未来像も考えながら、あなたが考える「ウェルビーイング」とは何か？

私は孫がこの夏帰ってくるのは楽しみです。

尾八重地区の会合に、PTA会長が赴き、地域の方々と学校をつなぐ椎葉小PTA地区懇談会のアイデアはよいと思います。

以前は尾八重の運動会に先生方に家族での参加があり、懇親会を含めて懇親の場があった。今は、そのような機会がなかったので、良い相談を受けたと思っています。

学校を核とした取組を6公民館も考えています。先日、公民館で運営協議会を行いました。「学校と繋がりたい、連携したい」という思いや考えを多くの団体の代表者がもっていました。どんな目的で、どんな時に、小学校とコラボできるのか考えていきたい。是非、地域に投げかけてほしい。

今の椎葉小の子どもたちにとっての校歌は椎葉小校歌だと思うが、統廃合した学校の地域の方が椎葉小校歌を「我が校歌」と思ってもらうにはもう少し時間がかかるのではないかな。

## ② 学校できること、保護者ができること、地域社会(公民館・任意団体等)ができることとは？

各地区に子どもが出向いていく機会。例えば、遠足で仲塔地区にうかがうとか、小崎にうかがうとかあってもいいのでは。

遠足で地域に足を運ぶことで、子どもの声が聞こえることができる。

第2校歌が昼の放送で流れていました。私たちの子どもたちが小学校在学時は、踊りもあって、披露していた。今、披露することはあるのでしょうか？

地域には、場所・人など、さまざまなものがあります。子どもも先生たちも、実際に見たり体験したりしていないから、地域の知らないことがいっぱいあるのではないかな。

徐々に熟議化していきました



各地区では誇りがあり、守ってきました。先生たちの頑張りや努力はうかがえます。例えば、先生方が各地区の神楽にいられたり、また舞われたりする姿は、地域の方々、一度も話したことのない方も含めて見ておられます。椎葉小は、地域の受け皿であり、また新鮮な場所でもあるということです。

私は先祖を供養することの大切さを感じる。夏休みのお盆は遊ぶためではなく、先祖を弔い、感謝することを理解しているだろうか。それも誇りにつながるのではないかな。

学校でこうしてほしいという要望はないでしょうか。例えば、体育館やその周辺に夏場に蚊が大量に発生していますし、これからできるプールも学校で意見を出すべきではないでしょうか。

通学路で、商店街から小学校へ下る階段の幅が広く、危険に感じることがある。特に低学年にとっては、段差や幅が広いのは気になっています。

地域を知らないのであれば、学校と社会教育団体や任意団体とにより、「つながり」「思い」を共有していくことで、何かできることがあると思う。



最後に日高校長が謝辞を述べ、会を終了した。次回、第2回学校運営協議会は、令和6年10月15日(火)です。

### 【まとめ】

- ① 「地域と共にある学校」と「学校が核となった地域づくり」どちらにとってもウェルビーイングとなるようにしていきたい。
- ② そのために「つながり」が重要であるが、学校と保護者・家庭・地域ができることの明確化は、次回に持ちこす。